

館林の自然と生きもの

発刊のご案内

水と緑豊かな館林の自然環境と
生息する動植物たちを
40年ぶりにオールカラーで集大成!



●第4回配本
特別編第3巻
館林の自然と生きもの
B5判 540ページ(オールカラー)
3,000円

館林市史 刊行案内

■館林市史購入のご案内

お申し込み方法

販売窓口：下記でご購入できます。

場 所	取り扱い
館林市史編さんセンター(第二資料館) 館林市文化会館 館林市役所総合案内(1階) 田山花袋記念文学館 向井千秋記念子ども科学館	月～金曜日 休館日(月曜・祝日の翌日)を除く
館林市立図書館・館林市第一資料館	休館日(月曜・祝日の翌日・月末整理日)を除く
群馬県立館林美術館ミュージアムショップ	休館日(月曜・祝日の翌日)を除く※一部展示替による臨時休館日を除く
館林市内の書店 (ケヅカ書店・聞声堂書店・みくに書房)	

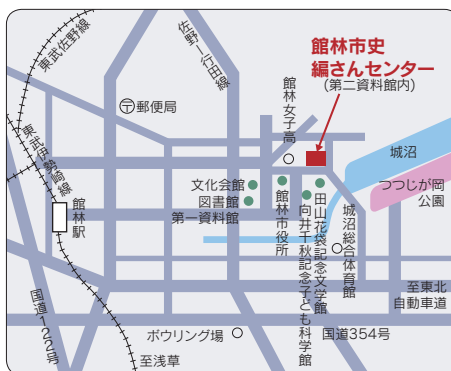
◆郵送の場合

遠隔地の方は郵便振替による購入ができます。
電話・FAX・Eメールで下記にお申し込みください。

〒374-0018 群馬県館林市城町2-3(館林市第二資料館内)

館林市史編さんセンター
TEL・FAX 0276-76-7651

E-mail shishihensan@city.tatebayashi.gunma.jp



刊行書名	内容予定
通史編	◇原始・古代・中世 ◇近世 ◇近代・現代
特別編	◆第1巻 館林とツツジ ※既刊 ◆第2巻 絵図と地図にみる館林※既刊 ◆第3巻 館林の自然と生きもの※既刊 ◇石造物(城館・中近世考古資料) ◇民俗 ◇建造物 ◇芸術文化
資料編	◇1 原始古代<館林の遺跡と古代史> ◆2 中世<佐貫荘と戦国の館林>※既刊 ◇3 近世<館林城と藩政> ◇4 近世<城下町と村落>※次回刊行予定 ◇5 近現代<産業とくらし> ◇6 近現代<事件記録>

※テーマ名は変更あり

『館林市史』は、通史編3巻、特別編7巻・資料編6巻の全16巻を刊行する予定です。館林の自然、歴史、民俗などさまざまな分野から、特色ある文化遺産を紹介し、未来へ伝えていきます。



『館林市史』特別編第1・2巻、資料編

城沼・多々良沼・近藤沼・茂林寺沼：

館林市内には多くの池沼や林など

独特の自然環境が残されています

水辺や林、田畑で見られる身近な植物

さらにトンボ・蝶などの昆虫や魚、鳥などの動物たち

館林・邑楽地域に生息する動植物を知り

自然との共存を考えます

◆『館林市誌 自然篇』(1966年)の発行から約40年が経過。新たに再編された今回の『館林市史』では、館林市史編さん自然部会の専門委員・調査員など14名が各分野を執筆。近年の環境変化と、詳細な調査にもとづく数多くの動植物をカラー写真や図表を豊富に使って紹介します。

序章 館林の自然のあらましと気候

館林の自然概観や動植物の特徴、ならびに近年の気温の変化などを解説。

第1章 館林の地形と地質

館林・邑楽地域の地形の特徴である台地と低湿地のなりたちや、利根川・渡良瀬川の河道変遷など、数万年にわたる自然史の観点から館林の特色を解説。

第2章 館林の水環境と水生動物

市内の城沼・鶴生田川・多々良沼を中心に、水質や水生動物からみた近年の環境変遷についてたくさんの方表を使って解説。

第3章 館林の植物

水生植物・帰化植物などの変遷や貴重種などを詳細に解説。さらに館林・邑楽地域の身近に見られる野生植物約200点を、顕微鏡写真などを加えて解説。

第4章 館林の動物・昆虫類、魚類、両生類、鳥類、哺乳類

トンボ・蝶・蛾・甲虫類・バッタ類などの身近な昆虫をはじめ、魚や鳥などの動物たちの生息状況を写真や図表で解説。

◆館林・邑楽地域に生息する数多くの動植物の貴重な記録を未来へ伝えます。

植物

館林・邑楽地域で発見された植物、絶滅またはわれゆく植物、帰化植物など15点、館林・邑楽地域に生育する野生植物(シダ植物・裸子植物・被子植物200点)

昆虫類

トンボ52種・蝶54種・蛾618種・その他の昆虫1147種

魚類

47種(在来種29種・移入種9種・外来種9種)

両生類・は虫類

両生類6種(トウキョウダルマガエルなど)

は虫類11種(ヤモリ・クサガメなど)

鳥類

125種(ハクチヨウ・カルガモなど)

哺乳類

8種(タヌキ・キツネ・イタチなど)



▲チョウトンボ(近藤沼・絶滅危惧種)



▲オニバス(蛇沼・絶滅危惧種)